

固定概念を打ち砕くために

—第5学年「広げよう深めよう自分を」の実践を通して—

今村昌禎

1 はじめに

高学年の自分タイムの実践に取り組んできて、最近いつも思うことがある。「何かパターン化してきているな」と。どの子も一人一人、自分の追究テーマを掲げ、自分なりに懸命に追究し表現し、ふり返って学習を終えるのだが、どこか満足し切っていないのである。自由な発想で取り組むはずの自分タイムにも、固定概念が生まれつつあるのではないだろうか。それでは、本当の自分タイムではない。子どもも教師も、もっと自由な発想を基盤にして取り組む必要がある。

まず、今までの子どもたちの取り組みのふり返りから気をつけていくポイントを探った。

3・4年生時の自分タイムのふり返り

(1) テーマづくりについて

- ◆自分に合ったテーマがなかなか決まらなかった。
- ◆何をするのかはっきりさせてなかったので、追究するまでにむだな時間をとってしまった。
- ◆いろいろやりたいことがあって、ころころやることが変わってしまった。
- ◆「自分がやりたい」と思っても、友だちとやりたくて変えてしまい、失敗してしまった。

(2) 追究活動について

- ◆追究に必要な用具を集めてなくて、取りかかるまでに時間がかかった。
- ◆コンピュータや本ばかりにたよりすぎて、追究したいことが最後まで分からなかった。
- ◆3人でやったから、大変だった。しゃべってばかり。
- ◆追究ではなく、遊びになってしまった。
- ◆追究に必要な用具が身の回りになかった。
- ◆インターネットで調べたものをプリントしてしまうだけになった。

(3) 表現活動について

- ◆表現したいことをまとめていなかったで、相手にうまく伝わらなかった。
- ◆表現することを「追究」の時にあまり考えていなかった。
- ◆何人かとやったのでむずかしかった。

このふり返りからでも分かるように、本当に追究していきたいテーマと、どのように追究していくのかを見だし切れていない。そこで、いろいろな発想や経験を持つ人たちとのかかわりから、特に課題設定と追究活動について、次のようにこだわって、子どもたちの固定概念を打ち砕いていこうと実践していった。

(1) 本当に追究したいテーマを見い出そう —3年生との交流学习を通して—

子どもたちにとって、自分タイムの追究するテーマは、ある程度自分や仲間の経験から、条件を定めて決まってしまう。追究のやり方がある程度分かるもの、すぐに追究が終わらないものなどである。そういった条件を意識するあまり、本当に追究していきたいものを見いだせなくなってきている。そこで、初めて自分タイムに取り組む3年生と交流しながら、自由な発想にふれ、自分のテーマを見つめ直す。

(2) 追究活動の手段を広げよう・深めよう —本物・本場・プロと出会おう—

子どもたちの追究活動は、限られた時間と空間の中に限定されている。授業時間、学校の本やコンピュータ、協力してくれる仲間と教師。この枠からなかなか脱出することがで

きない。そこで、思い切って学校の外に目を向け、活動場所と対象を求めていく。「本物・本場・プロ」とかかわる計画を自らの力で立て、追究活動をしていくように働きかける。

2 実践の概要と子どもの反応

(1) 活動計画（全29時間扱い）

（★＝3年生との交流）

	活 動	時間		活 動	時間
前 期	オリエンテーション	1	後 期	追究テーマづくり	2
	追究テーマづくり	2		追究活動	10
	追究活動①	4		(校外での活動OKは6時間)	
	ふり返り①★	2		表現活動★	2
	追究活動②	2		ふり返り	1
	表現活動	2		※追究活動は、なるべく3年生と同じ時間にするように心がけた。	
	ふり返り②	1			

(2) 3年生との交流活動

前期の追究活動の途中で、「3年生と学び合おう」ということで、3年生に自分タイムの概略を説明したり、3年生の追究テーマづくりの相談を受けたりする時間を設けた。この活動を通して、もう一度自分タイムの基本的な考えに立ち戻ったり、3年生の豊かな発想の追究テーマにふれたりして、自分の活動をふり返る場にした。

3年生と学習してプラスになった点

- ★いろいろな「テーマの候補」の中に、『これやってみたいな』『そう言えば…』というのがあったので、今度の自分タイムのテーマに生かせる。
- ★今まで「ふつう」「分かっている」と思っていたことを調べてみたいと改めて考えるようになった。次の自分タイムに生かせるかも。
- ★たくさんの種類の課題があることが分かった。
- ★3年生の質問から、今までの自分の取り組みをふり返ることができた。
- ★2年間自分タイムをやってきたけど、3年生におとる部分があった気がする。そこをいっしょに直していきたい。
- ★3年生へのアドバイスを考える際、自分が分からないことが分かるようになった。
- ★教えるのがうまくなった。[いろいろ考えるうちに]
- ★自分にも分からないものを一緒に考えられる。
- ★だんだんやる気が上がってきた。
- ★3年生にとってわかりやすいように話したり、疑問に答えたりする力がつく。
- ★「自分タイムはなぜあるの？」などの質問で、改めて自分タイムの大切さが分かった。
- ★ちがった方向から自分タイムができることが分かった。
- ★3年生とのちがいが分かった。発想力のすばらしさを感じた。
- ★3年生のやりたいことを大切に、やりたいことに向けて導く力がつく。
- ★3年生のやる気から、追究の楽しさを改めて感じた。
- ★「想像力」「学ぼうとする力」「追究したい気持ち」などにふれた。

後期の追究テーマの内容に期待をしたが、あまり大きな変更はなかった。活動への意欲は増してきていた。

(3) 本物・本場・プロとかかわろう

活動場所・対象を見つけ出すために、電話帳を調べたり、身近な人から情報を仕入れたり大変苦労していた。見つけ出したら次に、電話やFAXを利用して交渉していき、交渉が成立すると、追究活動の企画書を作成した。〔資料1〕土曜日を利用して追究活動をした。校外での追究においては、安全面を配慮して、保護者に引率してもらえるように依頼した。但し、見守る姿勢で臨むことを確認した。

追 究 テ ー マ	活 動 場 所 & 方 法
創想の絵, マンガ・風景のスケッチ	広島市現代美術館で鑑賞・スケッチ
フルート・ホルンの歴史と種類	県立図書館で資料調査, 楽器店で取材調査
熱帯魚と金魚の楽しみ方	宮島水族館, ペットショップで取材調査
絶滅危険動物・天然記念物	宮島水族館・安佐動物公園で取材調査
犬の種類や育て方	ペットショップで取材調査
不思議&おもしろ方言タイム	平和公園でインタビュー
いろいろな県のくらし	平和公園でインタビュー
競馬に出た馬の歴史・騎手	福山競馬場で取材調査

〔資料1〕校外での追究活動の企画書

11月27日 自分タイム「広げよう、深めよう自分を」① 企画書
(グループ名前)

午 前	
時刻	8時集合 → 10時
場所	広島駅 → 電車(宮島線) → 舟 → とら → 水三ヶ所 → 活動 →
交通	TEL 40分 10分 10分 300 10分 TEL
準備	2時3分~40分 船も電車も 25分 280 永島のりさん 0829- FAX 0829-
費用	8時20分~40分 10分おきに来る
午 後	
時刻	12時
場所	弁当 → 活動 → かいさん TEL
交通	
準備	バス(買うなら500) ひきおぐ・ノート・チップ・サンク
費用	費用の合計: 2320 円

【記入時の注意】
 ◇先生への連絡は、集合・(昼食)・解散の3回はする
 ◇見学先の電話番号・担当の方を書いておく。
 ◇トイレの場所も確かめておく。
 ◇主な活動は、 _____ の上に赤で記入する。

【緊急時の連絡先】
 今村(携帯レンタル) 090-
 東郷小学校【教習室】082- 【第5教室】082-

「本物・本場・プロ」とかかわる中で、計画以上の収穫や喜びがあり、追究したことをとても自慢げに話してくれた。自ら計画・交渉し、緊張する中で充実した活動ができたからこそ味わえる喜びであった。引率の保護者も、子どもの力に驚いていた。

3 おわりに

自分タイムには、「こうあるべき」というものをあまり確立しない方が、伸び伸びと子どもたちが活動するに違いない。もっといろいろな追究が実現するように、子どもも教師も発想力・企画力・実行力を身につけていかなければならない。